

＜ホタルにあわせるように＞咲き出すのがホタルブクロです。白から赤紫の色が濃いめのものまでキャンパスのあちこちで見られます。ビオトープの端の小高い斜面にも咲いています。5cmほどにもなる大きな筒状のこの花にホタルを入れたことがあります。花卉を通して黄緑色の光が中で動く様子はとても幻想的です。ただ袋のように上手く口を閉じることにはできません。



＜ホタルブクロ＞

＜やっとう登場＞ホタルブクロの花を待つよりずっ

と前から気になっていたのがヤブレガサです。実は今までしっかりと花を見たことがなかったのです。春先に顔を出すヤブレガサの若葉は萎（しお）れて垂れ下がったような姿をしています。まさに名の通りの破れ傘です。花枝が2枚の天狗の団扇のような葉を付けて立ち上がり天辺に小さな花を付けました。植物に全く罪はありませんがボロギクと同じくらい地味というかパツとしない花です。



＜ヤブレガサ＞

＜いずれがアヤメかカキツバタ＞ヤブレガサから小径を隔てて池の畔にお洒落に登場したのがハナショウブです。1mを優に越える高さで育ったガマ（蒲）の緑の間からの突然ともいえるお目見えです。



＜ハナショウブ＞

優劣のつけ難い美しいものや優れたもの同士に対して“いずれがアヤメかカキツバタ”と言います。この文句にはハナショウブが入っていませんがこれら3つはどれも美しくよく似た花を咲かせますから区別が付き難いですね。調べてみると、水辺に育ち花卉の付け根に黄色の模様のあるのがハナショウブとのことです。古くから野

生のものに改良が加えられて沢山の品種があります。ビオトープのものも野生種ではありません。アサガオ、キク、ラン、ツバキなどと同じくハナショウブにも心血を注いで品種改良にとり組んだ人が昔は沢山いたのでしょうか。ハナショウブから視線を下にやると矢じりのような形をしてスッキリとした緑の葉があります。クワイです。これもそのうちに花を咲かせて実をつけることでしょう。



＜クワイとセリ＞

＜産卵するギンヤンマ：木内好信氏撮影＞

＜ビオトープ育ち＞ガマなどに付いているヤゴの抜け殻を見るとビオトープからいろんなトンボが羽化したようです。写真のギンヤンマは産卵中ですがビオトープ生まれで命を繋いでいくのでしょうか。ギンヤンマの乗っている水草はヒルムシロで今、地味な花が咲いています。(文と写真：松本正勝)

